

「プロが驚くハイリターン投資法の実態 - 20 - 」

現代版わらしべ長者への道

- 本小冊子にノウハウを無料掲載 -

J・P法（ジャンピング・ポイント投資法）とは・・・

一口でいうと、検証可能な形でそのノウハウが公表されたローリスク・ハイリターンの科学的投資法であり、基本的に市場の非効率性を衝いた逆張り投資法です。

検証可能ですから常に他の投資法との優劣が明確になります。J・P法は常にその世界でナンバー1の投資法であり続けるために進化をし続ける投資法です。

J・P法の目的

< 儲けること >

株式投資の最終目標は相場を当てることではなく、資産を株式投資によって殖やすことつまり儲けることです。無論、相場を百発百中当てることができれば、いやでも儲かってしまいます。しかし、いかに科学が発達しようともそんなことは100%無理な話です。（もし可能であるという人がいればその人は詐欺師かバカかのどちらかです）

J・P法は占いのように個々の銘柄を当てることではなく株価を統計的に処理することにより継続的に利益をあげることを目指します。

J・P法の特徴

1) 出来ることと出来ないことを峻別

当てることは出来ないが儲けることなら出来る、私達は何人といえども納得せざるを得ない「自明の理」を積み重ね確率的に最大利益が期待できる手法を完成するための合理的な努力を傾注し続けています。

2) 勝ち易きに勝つ

トータルとして勝ち続けるためには市場全般の流れを読み、期待収益が予想されるリスクよりも大きい特殊な時期の到来を待って市場に参入する必要があります。

「森（市場全般）を見てから木（個別銘柄）を見る」のがJ・P法の基本です。その上で更にリスクを軽減するために複数銘柄をバスケット買いします。

3) 迷信から統計へ

株式相場は人生同様どんなに科学が発達しても予測不可能な側面を山ほど抱えています。将来が予測できない不安定なものに対処する場合、人は何か神秘的なものや力強いものに頼る傾向があります。株式投資の世界、とりわけテクニカル分析の世界では神秘性でカモフラージュした非科学的な投資法が未だに主流を占めています。

将来の変動が不安定で予測が不可能な商品を扱う場合の合理的な対応法は統計と確率を利用することです。< 迷信から統計へ > がJ・P法のモットーです。

図解J・P法(104)

吉村茂光

これまで学習した売買手法ではどうなるか考えてみましょう

今、どう行動すべきか？！

順張りの手法では・・

- 1) 週足折れ線グラフによる判定: 下値切り下がり売り場圏 (図1参照) 会報98号
- 2) 日足折れ線グラフによる判定: 下値切り下がり売り場圏 (図2参照) 会報99号
- 3) 週足ハイロー・バンドによる判断 (会報103号) 周期52週のハイロー・バンドの下に株価があり見送り局面

逆張りの手法では・・

- 1) 日足合格銘柄数検索 (会報100号解説) 合格銘柄 (5) 10銘柄以下で見送り
- 2) 週足合格銘柄数検索 (会報101号解説) 合格銘柄 (266) 150銘柄以上で**買い場**
- 3) 騰落レシオ (日足) による判定 (会報102号) 71.4ポイント (60以下が理想) 見送り

2) 合格銘柄多数のため売買単位100株
1日出来高50万株以上、株価30円以上に
貸借銘柄に限定

結論

◎ 順張りで買って気持ちよく儲かるという相場はしばらくこない公算が大きいのが、突っ込みを買って短期間に比較的大幅な利益をえられる時期は意外に近くなっていると見ていいでしょう。

◎ 材料的には米国で次々と発表になるマクロ指標の悪化、金融株の予想を上回る大幅な悪決算の表面化、急ピッチな円高等々の構造的とも言える悪材料が山積しており、これらの難問を一朝一夕に解決する妙案はあり得ません。本格的回復までには年単位の時間がかかるとみておくべきです。

◎ 下げの過程で相場が反発するには素人分りのする悪材料の出現により大衆投資家のパニック的な投げが発生するのが理想的です。この投げに対してこれまで相場を売り崩してきたプロの買い戻しに遅ればせの売り方の狼狽な買い戻しが加わり、この一時的な反騰が予想外の迫力を持つてしまうものです。

週足折れ線グラフによる判定



プロが驚くハイリータン投資法の実態 - 20 -

日足折れ線グラフによる判定 (会報99号参照) ・ ・ 見送り 図 2



ハイロー・バンドによる判定 (会報103号参照) ・ ・ 見送り 図 3



逆張り手法による局面判断

日足合格銘柄数による判断（会報100号参照）・見送り局面

図4



週足合格銘柄数による判断（会報101号参照）

JP法分析シート 週足用
大底圏の個別銘柄発掘法

短期M指標 以下	-4	最安値 周期	50	最高値 周期	50
中期M指標 以下	-10	最安値比率 以下	1.1	最高値比率 以下	0.6
生短弾性値 以下	-13	最安値日柄 以下	2	最高値日柄 以上	34
生中弾性値 以下	-25	短長DC後日柄 以上	18		
生長弾性値 以下	-34	当日終値 以上	20		

検証期間	1990/03/04 ~ 2007/12/30	建玉期間	26	閉じる	印刷
シート番号	235 ~ 235 まで				白
30%以上上昇の件数	12215 件	30%以上上昇の確率	51.06 %		
20%以上上昇の件数	3413 件	20%以上上昇の確率	14.27 %		
10%以上上昇の件数	3717 件	10%以上上昇の確率	15.54 %		
ダメ の件数	4579 件	ダメ の確率	19.14 %		
30%上昇に要した日数平均	13.86 週	30%以上の平均上昇率	71.26 %		
20%上昇に要した日数平均	10.49 週	20%以上の平均上昇率	24.91 %		
10%上昇に要した日数平均	8.44 週	10%以上の平均上昇率	14.85 %		
		ダメ の平均上昇率	3.93 %		
		全体平均上昇率	43.00 %		

前頁週足合格銘柄数と日経平均週足

図 5



3月17日合格銘柄：345銘柄

合格銘柄のうち株価の安い順に10銘柄を選ぶと

ユーザー銘柄管理

銘柄シート番号 (1~9999まで入力可) 分析チャート 3999/3999

コメント 四季報

日足 週足 月足 2008/03/17 終値読込 倍率自動 倍率=1 一覧表

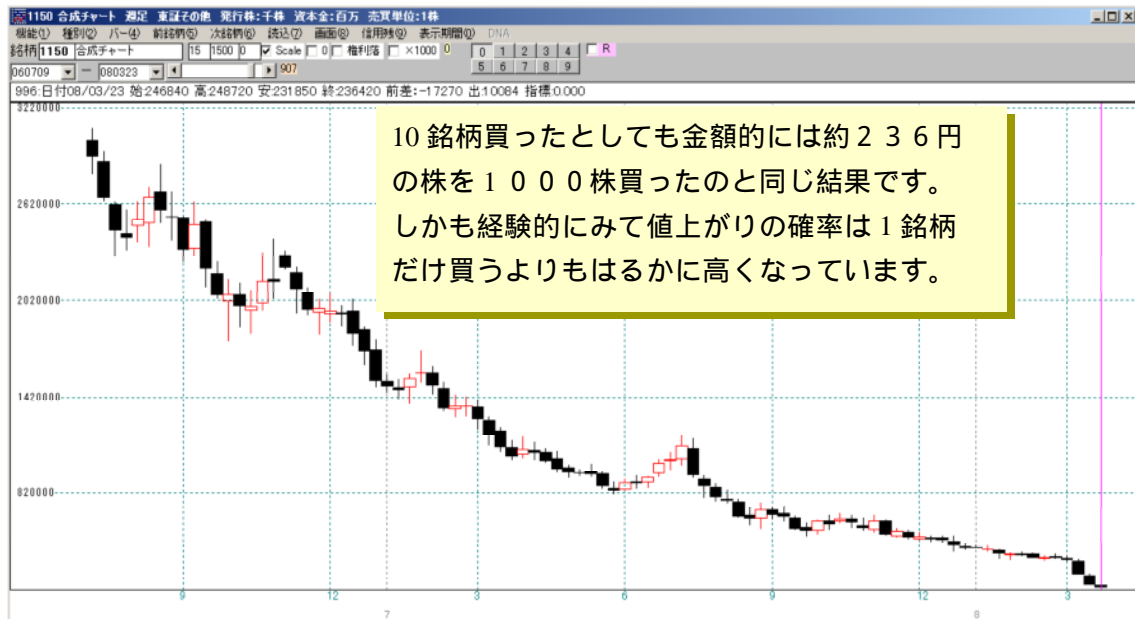
1 単元

No.	コード	銘柄名	指定日終値	倍率(単位)	コメント
1	2130	メンバーズ	20	1000	1株
2	9445	フォーバルテレコ.	20	1000	1株
3	4288	アズジェント	21	1000	1株
4	1400	アライヴコミュニテ	21	1000	1株
5	2709	タスコシステム	22	1000	1株
6	8911	創建ホームズ	22	1000	1株
7	7748	ホロン	24	1000	1株
8	2420	CHINTAI	26	1000	1株
9	8915	タクトホーム	30	1000	1株
10	7725	インターアクション	31	1000	1株
11					

読込
チェック
コード並替
初期化
削除
印刷

前頁 10 銘柄の時価総額週足

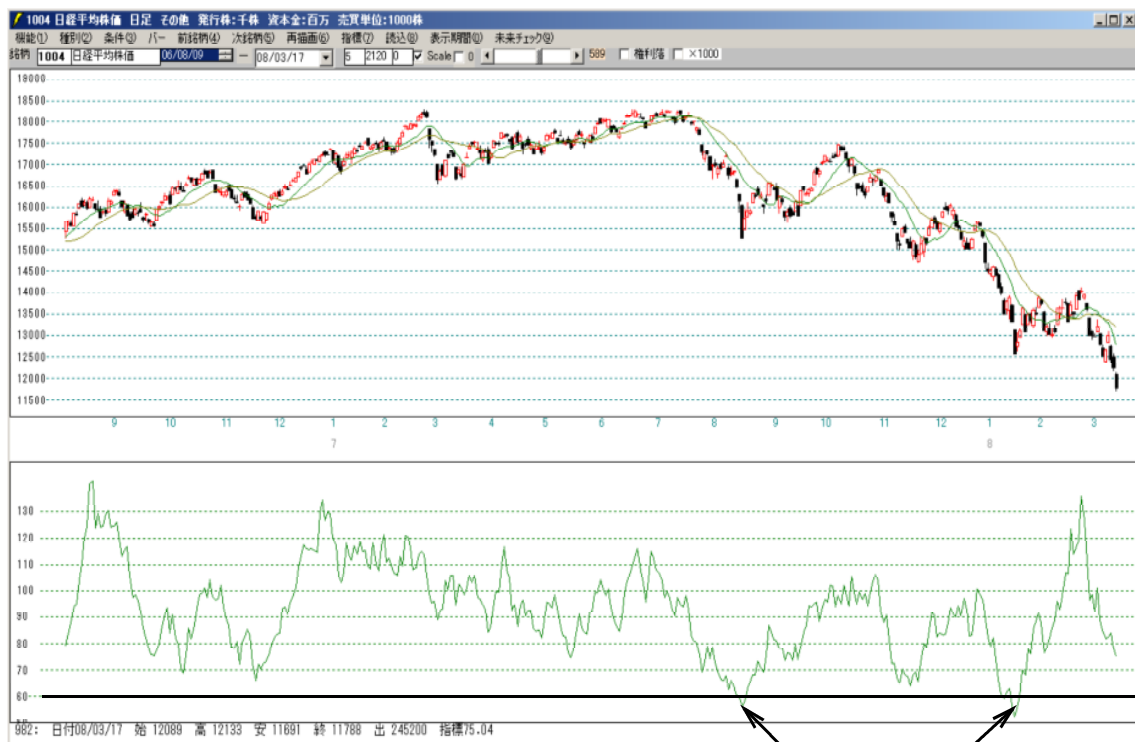
図 6



上記は全て 1 銘柄単位で売買出来る銘柄。10 銘柄全て買ったとしても 236420 円に過ぎません。今のような時期ですから万一の場合は無くなってもいいくらいの気持ちで買ってみるのも一興かも知れません。過去のシミュレーションでは更に値下がりしたら買値の 2 割り下でナンピンすると全てのケースで利食いになってはいるのですが・・・。

騰落レシオ（日足）による判断（会報 102 号参照）・・・買い場待ち

図 7



ここが買いポイント

わらしべ長者への道

・225オプション参考メールの実績です。

全実績につきましては、下記URLをご覧ください。

<http://www.neuralnet.co.jp/225option-prog/mail/index.html>

2008年3月限よりスタート

目標：元本100万円 月目標1割増（複利）

5年後目標 3億円 （第1回純益目標 = 10万円）

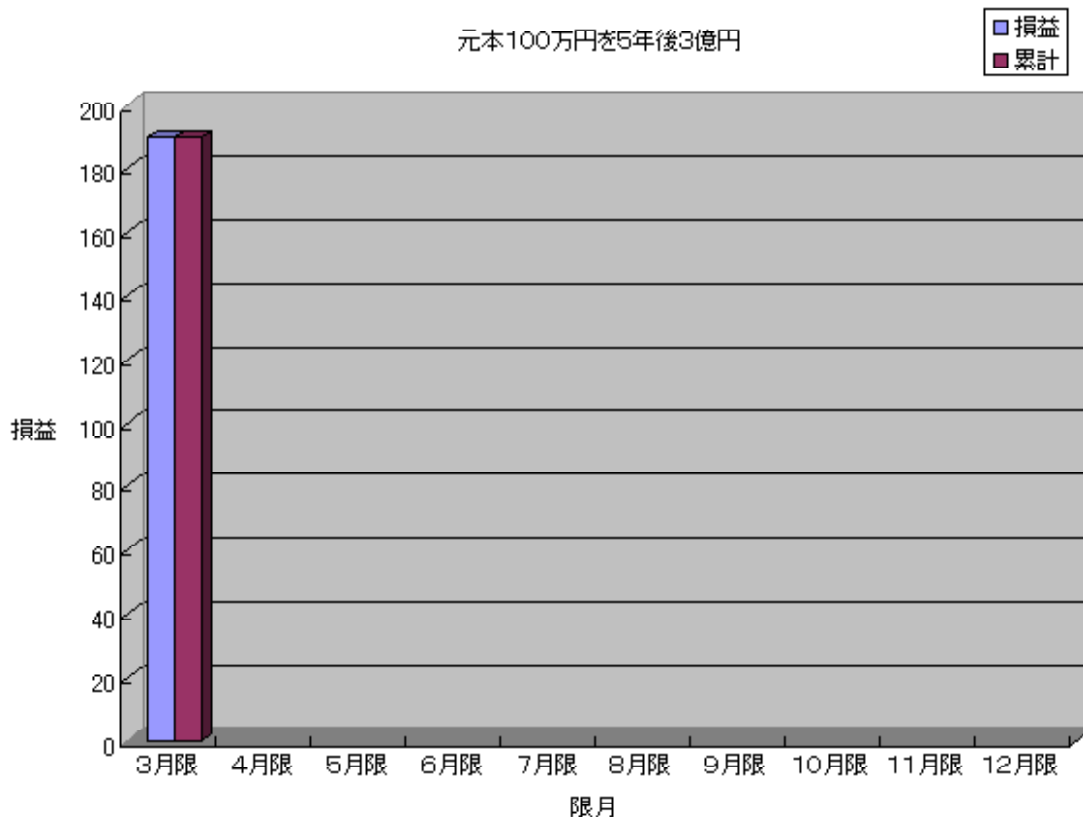
第1回純益目標 = 10万円 実績：19万円 手取り概算18万円

元利合計118万円

第2回純益目標 = 11.8万円

3月限推奨							
約定日	種類	行使価格	売買	枚数	寄付値	本日終値	評価損益
2月28日	プット(4)	10500	売り	1	40	85	▲45 3月4日
2月12日	プット	10000	売り	2	30	0	△60 SQ決済
2月15日	プット	11000	売り	1	40	0	△40 SQ決済
2月15日	コール	15000	売り	1	30	0	△30 SQ決済
2月20日	プット	11500	売り	1	35	0	△35 SQ決済
2月26日	プット	11500	売り	1	15	0	△15 SQ決済
3月4日	コール	14000	売り	1	35	0	△35 SQ決済
3月6日	コール	14000	売り	1	20	0	△20 SQ決済
総利益							△190 (1000円単位)

元本100万円を5年後3億円



プロが驚くハイリターン投資法の実態 - 20 -

J・P法の歴史

J・P法は開発者である吉村茂光が株式売買の実践の中から開発された投資法です。

この投資法を小冊子の形で一部の投資家に配布したのが今から約30年以上前になります。M指標（今盛んに使用されているMACDとほとんど同じ）、MAV指標、株価弾性値等のオリジナル統計指標を駆使した科学的なテクニカル分析は画期的なものでした。

1984年にはJ・P法の考え方を体系化して「最後に笑う 亀の歩みの投資術」（青潮出版刊）を出版、多くの投資家、特に専門家の好評を博しました。（我が国のテクニカル分析で指数平滑法や出来高加重平均株価を用いたのはこの本が初めてです）

その後パソコンの普及、低価格化に応じ1989年にパソコン使用を前提としたJ・P法の解説書「投資術の革命」（びいふる社）を出版しました。

J・P法の解説書は上記の2著ですが、その後も我々は日々研究を重ね分析手法も計量分析的な方向性を強め、マーケットリスクを分析した上で個別銘柄のポートフォリオをいかに合理的に作成するかの研究に専念した結果、実践的効果に於いても飛躍的に向上したものと自負しております。

J P法株価分析システムに関するお問い合わせ先

ご不明な点は弊社までご連絡下さい。

107-0052 東京都港区赤坂6-6-4 赤坂栄ビル204

ニューラルネットシステム株式会社 TEL 03-5549-7280

FAX 03-5549-0828

<http://www.neuralnet.co.jp/>